

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第58回● 冬のドイツ

冬のドイツもこれで3回目となる。だんだん楽しみ方もわかってきた。今年は少々寒くなるのが遅かったが、12月に入ると雪も降ってきた。人々の楽しみは何と言ってもクリスマスマーケットだ。この催しは毎年11月末から開催され、クリスマス前までの1ヶ月ほど連日開かれる。看板がデコレーションされた出店が多く並び、グリーンワインと飲むのが恒例だ。

取られるが、カップが欲しい。日本観光ツアーでもよい。日本人観光ツアーで各地のクリスマスマーケットを回るツアーもあるぐらいで、日本人もちよくちよく見かける。今年が始まってすぐフランクフルトとブーデンのマーケットに行くことができた。ワインと一緒に食べる物としてやはりフランクフルトソーセージが勧めだ。パンに挟んでもよし、そのまま食べてもよしという便利でおいしい一品である。写真はバラバラにしてケチャップとカレー粉を塗した

<グリーンワイン>



<クリスマスマーケット1>



<カレーブースト>



カレーブーストである。つぱりうまい！何枚か写真を載せておくが、やはり現場に行かないとこの雰囲気は味わえないだろう。

<クリスマスマーケット2>



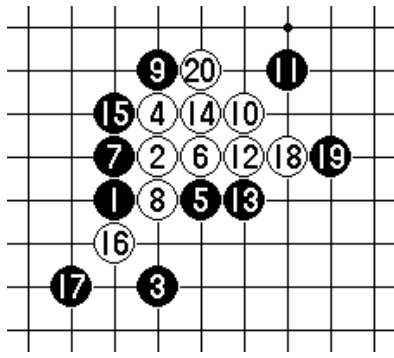
スウェーデンチーム戦 さて、11月には3年連続でスウェーデンのチーム戦に参加することができた。この模様は連珠世界に掲載予定であるので、珠友では掲載されなかった譜を中心

に報告してみたい。

今回はエストニアからは1チームしか参加しなかったが、その代わりにチンギン率いる大学生チームが参加したのが特徴だ。私は今回はストックホルムチームと1の大将として参加することとなった。

まず最初にご紹介するのは1回戦、アスプランドとの一戦である。今回はタラグチルールだったので序盤の紹介が難しいが、とにかく黒5の時点で私の方に白黒選択権があった。当然白を選んで白6と打つ。黒7は予想外だったが、白8と打って前回ご紹介した恒星寒星共通の変化に戻った。

<黒：アスプランド>



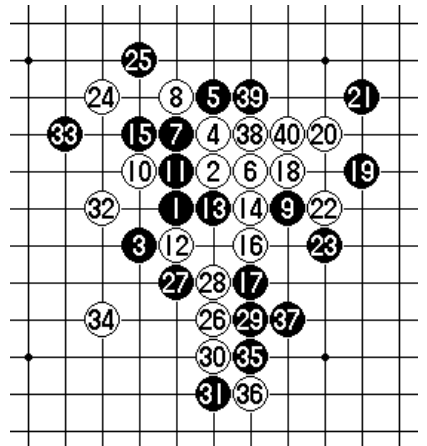
こうなれば私の方が知識が多い。アスプランドは黒11を反対に止めてきたのでこれは勝ったと思ったが、白12から追い勝ちにはなさそう。しかし、白12と絶

好の呼手が打って勝つことができた。しかし、いろんな珠型から合流するもんだと改めて感じた。次は最終戦で当たったサンドストロームと。彼はなかなか強く、地力がある選手だ。チーム戦では十分任せられる素質がある。

<サンドストローム氏>

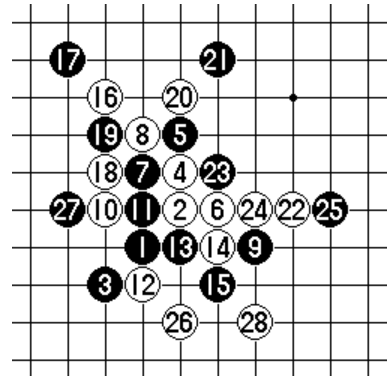


この局は彼の誘導で斜月と縦並び、そして黒5の作戦となった。これは嵐月と比べてどうなのかわからないが、白2、4の連が止められていないだけ斜月の形の方が白良いような気がする。



チーム世界戦の時に検討していたのである程度は知っていたが、流行しているようなので皆考えることは同じなのだろう。もちろん黒でこれを打つ気はしないが、白でも厄介である。白12までならじっくり打つ覚悟が必要であるが、白14に黒15が予想外だった。こは16に引いてくると思っていたからである。その後の展開の一例を示すが、確かにこれなら本譜より白がいいように思われる。だから黒は15と引いたのであろう。

<参考図>



さて、黒23まで打たれて上辺で勝つのはひとまずあきらめ、白26から黒をつぶしに行った。白24は交換に黒25に叩かれるが、負ける確率はぐんと減る。白32、34は攻めを見せながら黒の反撃を誘った一手。黒はこの誘いに乗り35と攻めてきた。密かに37と引いてくれないかと願っていたら本当に引いてくれた。これも上辺を深追いしなかった効果である。ストックホルムもクリスマス準備が進んでいた。欧州はクリスマスが何と云っても中心なのだ。